
海王星から太陽まで

so-getu

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

海王星から太陽まで

【Nコード】

N8329D

【作者名】

so-getu

【あらすじ】

人と人との距離って不思議なものです。近いと思うと遠くって、他人だと思ふととても親しい人なのです。私たちの距離？それは例えるのなら…

第0話 距離

向かい合えば誰よりも近い。

すぐ傍にいる。

でも背中を合わせれば誰よりも遠い。

声を聞くくらいの関係。

私と君の距離をたとえるのなら…なんだろう。

友達より遠く恋愛より近い。

家族より遠く恋人より近い。

誰よりも遠く誰よりも近い。

地球より遠く宇宙より近い。

とても物で例えられるような距離じゃないけれど、

もしも例えるのならそう、

太陽系の端と端。

海王星から、太陽まで……。

第1話 受験生4人組

日差しの眩しい7月の正午。とてもじゃないけど外には行きたくない天気だ。できることなら涼しいエアコンの効いた部屋でごろごろして、くつろいでいたい。

この季節にそんなさやかな願い事がいえないのは、あくせく働く営業マンか、中学・高校・大学の受験を控えた学生くらいだろう。ここ、東京のある町にも、贅沢をいえない学生が見られる。丁度夏期講習の時期だ。昼食を買いにこの炎天下に出なければならぬのだ。

少し大きめの通りに面したところに、『相川ゼミ』と書かれた3階建ての年季の入った建物がある。そこから出てきた4人の学生も、その中の数人だった。ダラダラと出てくる様子を見ると、建物内は相当涼しかったようだ。日差しにさっそく参っている。

「暑い暑い暑い!! もう塾戻りたい……。」

その中の一人の、ショートヘアの小柄な少女がじたばたしながら声を上げる。よほど暑いのか、手で風を送る仕草をしている。パシッ。

「った!…礼^{れい}! 頭を叩くな、頭を!」

少女より遅く建物から出てきた『礼』が小柄な少女の頭を軽く叩いたのだ。少女は頭を抑えながら、礼のことをきくと睨んだ。

「いや、普通に考えてそこ邪魔。お嬢さん、入り口ってわかります?」

礼は入口を指差してわざとらしくにっこりと笑った。そしてまるで幼児をあやすような言葉を、少女にかけた。

「なっ、お嬢さんいうなボケ!」

あからさまに嫌な顔をする。礼はぷつと吹き出して、少女を置いてすたすたと歩いて行った。一緒に出てきた2人が、呆れて先に行ってしまったからだ。

「蒼衣！一人でコントやってねーで早くくれば？」
その言葉を聞くと『蒼衣』は、焦って礼と他の3人を追いかけた。
これから昼食を買いにコンビニに向かうのだ。

「ばか！どうやってたらこんな遅く来れるのよ？」

『7時から11時まで開店』のコンビニに着くなり、怒鳴り声が聞こえた。先ほどの3人の中の一人の長髪の少女が、礼と蒼衣を怒鳴りつけていた。

「だって信号に引っかかってしもて…」

指をいじりながら、拗ねたように蒼衣が反論する。そんな蒼衣の言い訳も虚しく、

「言い訳無用。あんたらこれから一生二人で勉強しな。」

と氷のような言葉で一刀両断された。呆れて物も言えないといった感じで、大きくため息をついて。

「明日香…。それだけは本当に堪忍して。うちストレスで死ぬ。」

『明日香』の服の袖を引っ張りながら懇願する蒼衣の姿は、周りから見れば滑稽だろう。所詮は冗談なのだから。だけど蒼衣は大まじめなのだ。

あしらう明日香と泣き付く蒼衣。

そんな関係図が、周りの目には面白く映るだろう。

「あの、お二人さん。早くメシ決めて。帰りたい。」

銀縁眼鏡の少年が、明日香と蒼衣に声をかけた。両手には大きめのコンビニ袋2つを持って、貧乏ゆすりをしている。

「ご、ごめん七瀬。もうちょっとだけ待っててくれへん？ほら、まだ礼も買ってないし。あかん？」

蒼衣はおにぎり売り場で買うものを迷っている礼を指差した。そして両手をこすり合わせるように、『七瀬』に頼み込む。また置いていかれるのが嫌なのだ。ただでさえのろいののに、一人で昼食を遅れて食べたら確実に授業を受けられなくなる。そう考えたからだ。

「1分30秒。待つとしたらそれだけだな。」

そう言ってさっさとコンビニを出て行った。どうやら入り口のところで待っているつもりのようなのだ。

——なんだかんだで待ってってくれるんやん。

蒼衣はホッとしたように微笑み、さっさとおにぎりひとつと麦茶を買った。あとの二人はまだ買い物中のようだ。せっかく待ってくれた七瀬においていかれるのは嫌だ。そう思って、蒼衣は地獄の炎天下の下で待っている七瀬を追いかけた。

わだつみ
海神 蒼衣 あおい
てんま あすか
天間 明日香
みさくぼ れい
水窪 礼
いかるぎ
五十木 七瀬 ななせ

現在中学3年生で、受験戦争の真っ只中な忙しい学生達だ。

この4人は同じ中学校に通っていて、ほとんどいつも一緒にいる。はたから見ればただの仲良し4人組だろう。でもこの4人、それとは違う結束があるのだ。

別にいやいや一緒にいるわけではない。でも周りの友達関係とは、少し違う。

『Solar System』

日本語で言う『太陽系』だ。これが、彼らが一緒にいることになったきっかけだ。そして今も彼らをつないでいるもの。

これは4人の住む町に古くから伝わる、言い伝えなのだ……。

第2話 太陽系の伝説1

『世の中には頭がいい者、勉強ができる者、才能がある者、全てを兼ね備えた者の4つがある。』

すべてを持つ者は少ない。人間は完璧ではないからだ。大概の人は1つか2つだけを持ち、できないことに苦しむ。

逆にすべてを兼ね備えた者は少数派として、世間から省かれていく。妬まれ、感情のない人間になっていく。

もしも全てを持ち人間らしい人間が現れたときは、その人物はこの国、いや世界を変えていく人間になるだろう。

あすま東に住み、生きていく者よ。忘れずに覚えていてくれ。

東には50年に一度だけ、人が欲しがる全てを持ち、加えて太陽系に所縁ゆかりのある名前を持つ者が現れる。

その人物を見つけ、道を外れないように導いて行って欲しい。

見つけ方は簡単だ。

名前を見て、一字でも太陽系にまつわる感じがあれば『それ』の可能性がある。

その時は目を見て話してみてくれ。

話せばすぐに分かるはずだ。

とにかくその人物はきつと世界を変える力を持っている。

間違って進んでいることを、壊してくれる。

この世界から間違いを減らすために、人間全てが歩むべき道を歩めるために、どうかこの言い伝えを忘れないでくれ……。』

これは明日香たち4人の住む町：『東』の歴史の長い神社の石碑に書かれた言い伝えだ。江戸時代初期から伝わるもので、この言い伝えを書いたのは旅をしながら物を売っていた男の商人だったそうだ。その男は全てを持つ者だったが周りの妬みのせいでなにもできず、しがない商人となった。

だが最後に行った町、つまり東で行動を起こし、東の役人が行っていた不正を明るみに出した。

自分ももっと早く行動をしていたら、この世をもっといい方向に変えられたのではないか？不正や悪事で苦しむ人たちが、もっと減ったのではないか？ならば言い伝えを作り、世界を変える者達を導くべきではないのだろうか……。

そう考えた彼は自分の考えを意思に刻み込み、それを言い伝えとした。そして、その生涯を終えた。

最初はその言い伝えを誰も信じようとはしなかった。50年に1度なんて、どうして短期間しかいなかった男にそんなことが分かるんだ、適当なことを言っていたに違いないと考えたからだ。

誰もが言い伝えを忘れた。そして平穏に暮らしていた。

57年の歳月が過ぎたとき、『それ』は起こったのだ。

天間 てんま 平次郎という男が、その町に現れた。

『あーあ、このままだとこの国、外国に潰されるよ？ちょっとみんなで動かしてみる気ない？』

このときは、日本が鎖国を始めたころだった。日本は平和な江戸時代を過ごしていた。誰もが鎖国政策が続ぎ、江戸時代が永遠のものだと思っていた矢先に、平次郎がこの言葉を言ってしまった。

平次郎は即刻逮捕、そして処刑になった。誰にも知られることなく、極秘で殺された。幕府は恐れた。一揆や打ちこわしが、日本にあふれることを。江戸幕府が終わることを。だから殺したのだ。たとえば平次郎の考え方が正しくても、保守することを取ったのだ。

平次郎の意志と『太陽系の伝説』は、ここで途絶えたように見えた。だが、ひとつの可能性があった。

平次郎には1人息子がいたのだ。

平次郎の息子は、平次郎の意志を受け継ぎ、『太陽系の伝説』を来世に伝えるために努めた。

そして更に時は流れ、『太陽系の伝説』は私たちが生きる今まで生き続けた。歴史を動かすとき、有名な人物に助言をしたりしていた

のはすべて彼らだった。

そして、今日『太陽系の伝説』を生み出した天間平次郎の血を受け継ぐものが天間明日香、というわけだ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8329d/>

海王星から太陽まで

2010年11月5日13時37分発行